

## 「ふるさと再発見!講座 筑豊の鉄道」を開催しました



7月7日(金)に、西日本新聞直方支局長の安部裕視記者を講師にお招きし、「ふるさと再発見講座! 筑豊の鉄道」を開催しました。鉄道開通150周年であることから、直方駅や筑豊興業鉄道について、その成り立ちや歴史を、福岡日日新聞(西日本新聞の前身)や過去の西日本新聞の記事を用いてお話いただきました。

1891年8月30日、筑豊興業鉄道は筑豊からの石炭輸送を目的に設立され、当時は全国の出炭量の半分が筑豊という時代でした。そして、この年に水運96.5%、陸運(鉄道)3.5%であった送炭量は1895年には比率が逆転し、水運42.3%陸運57.7%と、しっかりその目的を果たし根付いていったのです。開通式の様子を伝える記者の乗車体験記からは、線路が奇観であるさまや、米国製やドイツ製が多かった時代において客車が日本製であることの喜びと高揚感、筑豊の石炭が運輸の道を開くことへの大きな期待が寄せられていました。筑豊の鉄道の栄華を思い出し、あるいは初めて学びながら、現在保存されているSLについてもご紹介いただきました。

当日は、機関士として働かれていた方やそのご家族であったり、当時利用されていた方などにもご参加いただけたようで、質疑応答の時間には参加者同士でも意見交換しながら思い出話が広がり、和気あいあいとした雰囲気でした。

直方市立図書館では、『自分の住んでいる町の歴史や文化を知ることで、今まで気がつかなかった郷土の魅力に気づいてもらう』ことを目的として、不定期ではありますが「ふるさと再発見!講座」を開催しています。内容は変わりますが次回の講座も計画中ですので、広報が始まった際にはぜひ奮ってご参加ください。

参考:「筑豊の鉄道」講座より



## 筑豊の民話 -地名に残る入り海-



海岸線にある地名には、江、浦、津、崎などの字のついたものが多いようです。例えば、島根の松江市や長崎の松浦市、佐賀の唐津市、大分の中津市、福岡では津屋崎市などが浮かびます。

直方市内について調べてみると、下境に北ヶ崎、古田浦、高津。新入に島巡、北ヶ崎、須崎、神崎。感田に浦の谷、湯の浦、山の浦など、その他中泉や植木にも、海に関係のある地名がかなり多くみられます。もちろん、これらの地名全てが本当に海との関係から発生したかはにわかには断定できませんが、大昔、遠賀郡芦屋の海が直方近くまで入り込んでいたという説を裏付ける資料と考えることはできます。

入り海説の強力な証拠は、貝塚(縄文時代の人類が採取して食べた貝殻のカラが厚い層をなして堆積している場所)です。その貝塚が、鞍手郡木月と、遠賀川を隔てた楠橋で発見されています。どちらも海産の貝殻を多く含んでいるので、木月と楠橋は海岸線に近い場所であったのでしょうか。2つの場所の直線距離は約4km、これが芦屋からの入り海の東西の直径であったらうと思われます。この地区以外に、植木・新入でも貝塚が発見されており、今後新たに発見されれば入り海の形は更にはっきりするでしょう。

入り海は、遠賀川上流から運ばれた土砂によって次第に埋まり、沼や池の多い湿地帯に変わっていきました。湿地帯を表す地名に「牟田」がありますが、植木の牟田、侵入の鴨生田・追牟田など市内に多く、いずれも入り海が湿地化した名残だと考えられています。

「直方むかしばなし」 N388ノ

【基本情報】 ◇無形民俗文化財 《所在地》多賀神社 《指定年》1976年4月

日若踊りは、古く日若宮と呼ばれていた多賀神社に奉納された踊りで、中世に流行した風流踊りの流れをくむものです。直方市教育委員会刊の「直方日若踊」によれば、寛永年間に大阪の人、次郎左がそれまでの素朴な踊りに新しく詞と振付を加え七手踊りにしました。多賀神社の祭礼や盆踊りとして伝承されてきました。「思案橋踊」には御殿勤めの女の格好である「妻折」があり、「次郎左踊り」は編笠姿の男の踊り手が入っていました。これは昔、直方藩士が踊りの輪に入っていた姿から来ているそうです。その後、江戸時代末に宮芝居に来た大阪や肥後の役者に振付を頼み、古町本手踊り、新町本手踊り、外町本手踊りが完成します。

日若踊りは、地方、踊り子、世話人、諸道具で構成され、輪踊りと道囃子があります。輪踊りは直径が3mもある大傘を中心に踊り子が若い順に外側から花笠・花櫛・妻折・編笠と輪になり踊ります。踊りの場所（庭）を移動する際には道囃子をします。

貝島炭鉱を開業した貝島太助は古町本手踊りを完成させた一人で、日若踊の復興に力を注ぎ、貝島組として会社を挙げて日若踊を楽しみました。

もうすぐお盆がやってきます。直方の町人によって作られ、守られてきた日若踊を今年も楽しみたいと思います。

参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>  
「直方日若踊」直方市教育委員会 NL386 / 「直方市史下巻」直方市史編纂委員会 N219 /

## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもってください。きっかけになればと思っています。

### 『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』全6巻

「筑豊の子供を守る会」関係資料集成編集委員会 NL567 ㊦

1960年代、国のエネルギー政策の転換により、筑豊の炭鉱は閉山に追い込まれ、特に中小炭鉱の失業者の生活は困窮を極めました。1960年に刊行された土門拳の「筑豊の子どもたち」をきっかけに、東京神学大学、立教大学、ICUなどミッション系大学の学生による「筑豊の子供を守る会」が結成され、夏休みを利用して筑豊へキャラバン隊が派遣されました。物資の配給だけでなく、人形劇や紙芝居など、遊びの場を作っていました。

炭鉱閉山当時の状況がわかる、貴重な資料です。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内  
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902